

第3部会	分野	文化・スポーツ	第3部会—資料38	
A 欄に関する意見メモ			C 欄に関する意見メモ	
<p>《現基本構想の進捗検証・評価》</p> <p>【文化】</p> <p>○外国人の人口が増加しており、多文化交流の重要性を感じる一方で、外国人との交流は必ずしも増えていない。</p> <p>○文化施設等のハードは充実している一方、ソフトの部分に課題がある。日本は、1度始めたらがむしやりに長く続けられないといけなく、いわゆる「ど根性」の空気がある。</p> <p>○今は学校という場で異質なものと出会う機会がない。高齢者や障害者、違う国の文化と出会うことができなく、子どもの強みを生かすことができない。</p> <p>○日本人の自信のなさや経済的な凋落が絡まって、異質なものを認めたくない、変わりたくないという感覚につながっている。</p> <p>【スポーツ】</p> <p>○日本のスポーツ教育は良い。水泳施設が公立学校にあるのが素晴らしい。</p> <p>○小学生だけ、中学生だけ、高齢者だけ、大人だけといったように、世代に分かれている。</p> <p>○あれもしないほうがいい、これもしないほうがいいと、どんどん子どもの体力が落ちている。</p> <p>○東日本大震災後、外遊びの機会がなくなり子どもの体力が落ちた。車が危ないから外遊びの機会を奪う、これは社会的なネグレクトである。</p> <p>○部活動がどんどん減っている。</p>			<p>《基本的な取組の方向性》</p> <p>【文化・スポーツ】</p> <p>○地域の社会資源を活用しながら文化やスポーツを体験させ、子どもたちがどう感じ、どう考え、選択し、その選択した喜びを感じる。</p> <p>○学校という規範を超え、いろいろな遊びからスポーツも文化も生まれてくる。</p> <p>○目標に向かって成長できるシステムがあると良い。</p> <p>○学年に関係なく、好きなことに打ち込めるシステムがあると良い。</p>	
<p>《今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点》</p> <p>【文化】</p> <p>○コロナ禍で様々なことがオンラインに変わっていき、オンラインは学生にとって日常となり、設備がなかったことが課題として見えてきた。</p> <p>○地域BWAは、防災や観光を目的とするため、ロビー近辺での整備が前提だと思うが、区立施設の中の小さな集会室等で文化活動をするときにどういった設備を備えておくか検討すべき。</p> <p>○人工知能の発達により、あと10年で今ある仕事の5割はなくなり、失業者が増えると言われている。生体認証技術と人工知能が組み合わさって、自我や意思を持たなくてもシステムが管理してくれる時代がくる。そうすると、自我、人格といった問題がいらなくなる。</p> <p>○人生100年時代では、違う存在、異文化の中で子どもは生きていく。そういう社会の中で、子どもたちの声をどう聞き取るのか。</p> <p>【スポーツ】</p> <p>○スポーツの認識が変わり始めている。健康のためではなく、自信を持つ機会を与えてくれるものとしてのスポーツ。目標を定め、それに対して自分が達成することで自信が持てる。それが楽しみであり豊かさにつながる。</p> <p>○競技スポーツ、地域スポーツ、健康スポーツ、生涯スポーツ、人生100年の時代をきちんと生き、楽しさや豊かさを継続するには、その基本となる幼少時の運動が大切。</p> <p>○生涯スポーツという視点では、どうやって仲間を探すか、また、どう取り組みやすくしていくのか。また、自分の生活の中に取り入れようと思うときに、身近な場所で活動できないと続けるのが難しい。</p> <p>○今、杉並区では子どもたちが外遊びをする場所がないが、子どもの日常的な習慣や環境をどう作るか。大人がどう保障するかが大きな課題。</p> <p>○都心部では種目によっては部活動よりもクラブチームに行く子どもが圧倒的に多い中で、中学生ぐらいまでのスポーツの環境に基礎自治体としてどう関わるかを考えないといけなく。</p>			<p>【文化】</p> <p>○子どもたちは、触れて、直接声を聞いて、体験することをもって理解し、自分たちの中にきちんと落ちていく。五感をもって理解することが大切。</p> <p>○お互いを知らないということが理解できないことにつながる。正しく理解することが重要である。</p> <p>○子どもたちに垂流ではなく本物を見る・聞く体験をしてほしい。</p> <p>【スポーツ】</p> <p>○子どもたちに自発的にスポーツを選べる環境をつくり、いろいろなスポーツの面白さを体験し、感じてもらう。</p> <p>○経済的な格差に関係なく子どもたちがさまざまなスポーツに触れることのできる機会があれば良い。大人になってからも、いろいろなスポーツに触れられる環境があると良い。</p>	
			<p>《具体的な手段・方法、取組など》</p> <p>【文化・スポーツ】</p> <p>○運動場でプレーパークをやったり、理科室で退職したおじさんが実験をしたりする。いろいろな人が学校の中にいるよ、というのも面白い。</p> <p>○学校というのは、聖域だから、先生たちには自分たちでという思いもあると思うが、学校が発想を変えれば、地域も変わる。</p> <p>○学校をどう開放していくのか。地域の中で小学校はキーになる。壁を取り払っていかにかに開放していいのかが求められている。</p> <p>○発表できる場や戦える場があるといい。目標をもって、自発的に自分がやりたい、行きたいと思える仕組み。スポーツなら杉並リーグでもいいし、種目もバスケでも卓球でもいい。文化であれば杉並公会堂を使って勝ち抜いたところ、一番上手なところが発表できるなど。</p> <p>○学校を活動の場とするが、学校の授業とは関係ないアクティビティがあると良い。技術が上がれば上のレベルに上がっていける。文化的なものだけでなく、サッカーや野球なども同じ。そこに高齢者がボランティアで教えに来て関わりができれば、さらに広がっていく。</p> <p>【文化】</p> <p>○多様性を受け入れ、仲間が仲間を呼んでいくと、もっと面白くなり、新たな文化を形成していく。</p> <p>○高齢者の知恵を子どもに伝える企画があれば見方も変わる。</p> <p>○高齢者や障害者から直接話を聞く機会をつくる。</p> <p>○異質なものの、自分と違うものとの接触の機会が重要で、その場として大事なものは小・中学校だと思う。異文化交流の起爆剤として学校が使えらると思う。例えば、学校に高齢者を招いて、老いとは何かを知る場として使うなど。</p> <p>○サークルのような形で、好きなら続けて、嫌なら気軽にやめられるような活動の仕方を社会でサポートできればと思う。</p> <p>【スポーツ】</p> <p>○普段スポーツをやっている大人が子どもに教える、コミュニケーションの場としてのスポーツがあっても良い。子どもには生涯スポーツのイメージが沸かない。他の世代と一緒にやることで、これかれら生きていき、老いていく中で、スポーツとどう関わるか、イメージも沸くのではないかと思う。</p> <p>○スポーツをやっている大人たちに夜間など、子どもたちのスポーツ体験を支える側に回ってもらう、つなぐような仕組みというのを作っていくことができれば双方にとって良いと思う。おじいちゃん・おばあちゃんと子どもたちをつなぐ機会にもなるのではないか。「する」に特化していた人たちが「支える」に気軽に回れる仕組みがあると良い。専門的にスキルがある人であれば、部活動の指導などもでき</p>	

B 欄に関する意見メモ

《目指すべきまちの姿》

【文化】

- 子どものころから多文化交流ができるまち
- 違ったものを受け入れ、共存共栄するまち
- 生きる喜びを感じられるまち
- 根付いた文化を継承できるまち

【スポーツ】

- コミュニケーションの1つとしてスポーツがあり、世代を超えて関わる
ことができるまち
- 多様なスポーツに触れる機会にあふれるまち

《目指すべきまちの姿を設定した考え方など》

【文化】

- 日本で生活し、出産する外国人も多いが、日本の文化や言葉がわからず、ストレスを抱えている方も相当いるのではないかと思う。
- コミュニティの中での交流が重要だと考える。「排斥」ではなく、子どものうちから多文化交流ができると良いと思う。
- 大人の世代は、無意識のうちに他の国を蔑視する傾向があり、そういう認識が子どもたちに伝染しないような社会にしていきたい。
- 差別や偏見の根本は無知である。正しい理解をすることはとても大切なこと。
- 文化は日常の中で起こり、耕されていくもの
- 自分が何なのかと問えるものは芸術であり文化。社会で生きていて、生きる喜びを感じることが大事だと思う。
- 「自分が」「考えて行動をとる」ことで実感がわいて、喜び・幸せにつながるのだと思う。「生きるエネルギーは感動である」
- システムが決めてルールの上を歩む、そういう社会が来る。そういうところを意識し、子どもが生まれ育つのに何が必要かを考えなくてはいけない。文化・芸術、感動する、感動体験を提供できるような場が必要だと強く思う。

【スポーツ】

- スポーツはコミュニケーションの場であり、いろいろな世代が参画できる機会があると良い。
- スポーツは子どもの自己肯定感、達成感を高める一つの大きな要素。
- スポーツは、やり遂げる力、達成感、子どもたちが生涯学び続けるための力を養うことができる。
- 小学生に多様なスポーツをまずは経験してもらい、そういった機会をつくっていく。

る。つなぎ目を作っていけるような仕組みがあると良い。

- ICTを活用すれば、接触しなくても、日本と海外とでもスポーツできる。日本全国国盗り大会などをやっても面白い。Googleをつけ、GPSを使えば、日本と海外でテニスもできる。